これまでのながれの確認

第３４期社会教育委員会議では、富士見市の社会教育に関する課題を洗い出し、その課題を解決するための方策を提言することとしました。

まずは各委員が考える理想の姿を話し合いました。活動に参加しやすいこと、活動の状態が良好であること、多様性や相互が尊重されていることなど、様々な意見が出されました（【資料２（理想の姿）】）。

また、生涯学習推進基本計画のアクションプランを参考に、富士見市の社会教育の強み、弱みはなにか、話し合いました。強みとしては、豊富な取り組みや子育て支援、地域資源などが挙げられました。一方で弱みとして、地域への関心や地域間格差、参加者の固定化・高齢化が挙げられました（【資料３（強み弱みまとめ）】）。

理想の姿と照らし合わせて、さらに伸ばしたい強み、補いたい弱みを話し合いました。実現したい状態や解決したい課題、目指したいこと、特にフォーカスすると良さそうなポイントなど、様々な意見が出されました（【資料４（焦点の整理）】）。

ただ、このままだと目指したいことがかなり広く、具体的にどのような策を講じればいいのか見当がつけられない状態となっていることから、更に的を絞っていくこととし（【資料５（焦点の分解）】）、目指したい状態を要素に分け、各要素について話し合いました（【資料６（分解の答え）】）。

対象者については、子どもにフォーカスを当てるのが良いのではないかという意見が多く、全体に当てるのがよいのではないかという意見もありました。すべての世代が関わることの出来るような仕組みを築くことが必要という意見もありました。各世代にフォーカスした取り組みは既に行われており、その個々の活動をつなぐものが不足しているのではないか、という意見もあり、これらの意見を受け、子どもをきっかけとし、全員が関われるような仕組みづくり、とまとめました。

関わり方について大事なこととして、まずはハードルの低さが挙げられました。また継続性、続けることが大事だという意見のほか、連続性、連携性も挙げられており、イベントや各団体の活動がつながっていくといいのではないかという意見がありました。なにか１つに興味を持てば、それに関連したイベント等の情報が入ってきて興味が広がるような情報発信がされていたり、情報が体系的に示されていたりするといいのではないかという意見もありました。また団体同士、活動同士をつなげるコーディネーター的存在も必要だという意見もありました。様々な意見が出され、結局は全部が大事だ、ということになりました。

これらのまとめをもとに、「目指したいこと」を実現するためには、どのよう

な方策を行うとよいのか、どんな提言を行うとよいか、検討しました。

今市内で活動している団体がすべて入っているプラットフォームをつくることがスタートではないだろうか、という意見が出されました。どこの地域で、どのようなテーマで、など、色々な切り口で検索できるようになると、それは活用性の高い情報源となります。活動している側もつながりやすいし、新しく参加してみようと思った時に興味のある団体を探しやすくもあります。

同じように、市内で行われている様々なイベントも一覧化し索引で引けるようになっていると、探しやすく便利であると意見が出ました。これについては、市のホームページで公開されているイベントカレンダーが理想に近いものであることも分かりました。

しかしながら、イベントカレンダーは既存のものを活用できるとして、データベースについては大きな問題があります。もちろん理想は網羅的なデータベースがあって、自由に活用できる状態かもしれません。しかし、その実現可能性を考えた時に、人員の課題、予算の課題等、現実的な課題に直面します。データベースの作成を提言したとしても、教育委員会に受け入れられる可能性（実際に改善される可能性）は低いと言わざるを得ないでしょう。富士見市の社会教育をより良くするために、私達社会教育委員会議としては、現実的な解決策を提言したいと考えます。理想は理想として、既存のものにはどのようなものがあるか、またそれらはどのように活用できるか、そこから検討していくこととしました。今あるものの状態を知り、改善策を考えることから議論を進めていく必要があります。

そこで、既存のデータベースとして、生涯学習ガイドに注目しました。この生涯学習ガイドを最大限に活かして理想のプラットフォームに近づけていく方策を考えていくことで、より多くの市民に社会教育活動に参加してもらう契機を作り出すことにつながるのではないでしょうか。参加してもらうには、まずは知ってもらうことが必要です。生涯学習ガイドを通して富士見市の社会教育を知ってもらい、社会教育活動に参加する一歩を応援できれば、私達がまとめた目指したい姿「数多くの多様な人たちが、ハードルを感じず参加でき、自分なりの適度な距離感で自ら望んで関わり続けられる、地域の場づくり」につながっていくのではないでしょうか。

まずは生涯学習ガイドをいかに多くの人に知ってもらうかが重要です。興味関心を持ってもらうためには、どんな人にどんな手を打てばいいか、意見を出し合いました（【資料７（生涯学習ガイドに講じるべき策）】）。

さらに、より具体的に提言するため、【資料８（生涯学習ガイドに講じるべき策深掘り）】として意見をまとめ、～現在進行中～